

天守閣木造復元関連予算案への反対討論 藤井ひろき議員(12月8日)

2022年の木造化に固執することが問題 市民や専門化の声をじっくり聞き、論議を

12月8日の11月議会最終日に市長が提案した補正予算案などの議案や人事案など50件の採決が行われ、日本共産党は天守閣木造復元に関連した2議案と、生涯学習センターの指定管理案1件、副市長選任の計4件に反対し、46議案に賛成しました。

天守閣木造関連の補正予算案についての採決に先立ち、藤井ひろき議員が反対討論を行いました。藤井議員は、2022年の完成スケジュールにあわせるために「特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議」の専門部会等での議論が中断してしまうなどの問題点を指摘し、木造化を急がずよく議論するよう求めました。

以下概要を紹介します。

2022へ急ぐことで問題化

今回の名古屋城天守台石垣調査は、必要と考えていますが、2022年天守閣木造化のために急いで行おうとするもとの、重大な問題が生じています。

専門家の意見の食い違いで、市が石垣部会に責任押しつけ

10月13日の天守閣部会と石垣部会の合同会議において、「石垣部会は、安全性を考えていない」という発言に端を発して混乱が生じています。この問題解決の調整を行っている中で、委員会の質疑において、「年内にも解決を図りたい。できなければ文化庁と相談し、他の専門家をお願いすることも検討する」という市の発言は、非難を受けた側の専門家に責任を押し付け、ことを早く進めようというものです。

この混乱の影響のため、現在行っている発掘調査、

修復中の
石垣



堀に保存してある、
修復を待つ石垣たち

地盤調査が専門家の協力を得られず、中断しているのにもかかわらず、さらに調査を進めていく今回の提案は同意できません。まずは、問題の解決がされるべきであります。



スケジュールありきでなく 「本物」の文化財の保全を

調査再開のめどが立っていないこの段階で、来年5月7日から天守閣入場禁止を断言するなど、いずれも2022年12月竣工のスケジュールありきでありませんか。

「本物」の文化財である名古屋城天守台石垣の現状を、適切な調査にもとづいて把握し、石垣を守り抜くという観点からも、このような強引な進め方は問題です。

日程に固執せずしっかり議論を

今回、石垣調査をめぐる、このような混乱が生じたのも、全ては2022年12月竣工に固執しているからです。

「木造化、急ぐな！慌てるな！いったん、立ち止まってしっかり議論を！」と最後に申し上げ、討論を終わります。



戦災の火災跡も残る天守台と再建された天守閣。



大天守の入り口の
石垣の中=穴蔵